

◆平成26年度を迎えて

学校法人中村学園
専門学校静岡電子情報カレッジ
静岡福祉医療専門学校

理事長・校長 中村 徹

このたび晴れてご入学、進級なされた学生諸君、おめでとうございます。

これから皆さんに、本学でどのような学校生活を送ってもらいたいかを記述しますが、ご家族の皆様にも、本学の教育方針をご理解いただき、またご協力もいただかなければと思います。

今年は一気に春が来たという感じで、静岡市は桜花爛漫です。

1月に新年を向かえ、年の初めの「今年の抱負」と「良年となるようお願い事」をされて平成26年を迎えられたことと思います。

さて、この4月はもう一つの節目の時期なのです。今度は平成26年度を迎えて、学生諸君は就学に当たりしっかりした「目標」を立て、学校生活において学業を通して、日々の努力から「自己実現」を図るんだ、という強い心構えを確認しなければならない時期なのです。

そして、新入生の皆さんにとっては、これからの学校生活はこれまでとは決定的に異なるといっても過言ではありません。これまでは「生徒」と呼ばれてきましたが、今後は「学生」と呼ばれることとなります。それは同時に、義務教育的に与えられる勉強から、本学に提供された「学びの場」で皆さん自身の意志と意欲で「自ら学ぶ」ということを意味しているのです。そして、学内環境では講義・演習などから答えが正しいのではなく、試行錯誤の中からそのプロセスを学び、インターンシップ・職場実習や卒業研究・ケアスタディなどの環境からも「こだわり」を持って、すべてを通じて「自ら考えること」を学んでください。これが皆さんが本学から社会に羽ばたくときの「実力・能力」となるのです。皆さんの学校生活を有意義なものにするには、「なりたい自分になる」ために、この時期に自己の「キャリアデザイン」のイメージを確認し、この具現化を図るために、「こだわり」をもって、「自らが学ぶ姿勢」にかかっているのです。

さて、私たちを取り巻く社会状況は明るい兆しが見えてきたとはいえいますがまだまだ厳しいものがあります。東日本大震災、1万5千人以上の方が亡くなられてから3年が経ちましたが、いまだ行方不明2,633人、27万人弱(去年は33万人)の方が現在も避難を強いられています。皆さんも様々な思いをもち、それぞれの体験を経て今日の日を迎えていることと思います。この悲劇的な惨禍を体験して生き延びることができた私たちには、本学園の創設者の教えにもある「生かされていることの意味」を問いかけながら、「今の困難」を乗り越え、「より良き未来」を創造していくことで、復興、そして日本再生に向けて、力を注ぐ義務があります。生活の場は離れていても、東北の復興は日本人一人一人に課せられた役割であることを必ず心に留めておいていただきたい。我が東海地方は今回はラッキーだったのです。いつ、次はわが身かもしれませんので、日頃の生活の中で、物心ともに準備を怠らないようにと思います。

そして、国内を見ると、経済の見通し、日本の国際的地位、あるいは環境・エネルギー問題、また少子超高齢化、それに伴う人口減少、特に国の力といわれる生産年齢人口の減少など、切羽詰まった課題が山積みです。

また、静岡県内でも消費性向の回復から改善判断となり、車関係産業等の生産活動が勢いを取り戻しつつあり、雇用者所得の上昇、消費および雇用の喚起、内需回復という強い景気浮揚サイクル入りが期待されます。

しかしながら、依然として海外経済を巡る不確実性、為替市場の動向、電力供給の制約等の先行きリスクがあることも留意する必要があります。

このように、直面する課題が困難であればあるほど、「学ぶ」意味はおおきくなるのです。

このグローバル社会における日本人としてのアイデンティティ、生き方を「建学の精神」「校訓」に謳う本学の教えをこれからの皆さんの人生に大いに活かし、グローバル人材を目指していただきたい。

(グローバル：外国語で会話ができたり、海外で活躍したりすることではない。もっと広く世界的に自分とは異なった考え方や生き方、価値観をもつ人と交流し、刺激を受けながら自らを成長させていくこと。)

「挨拶励行」、「時間厳守」、「言葉づかい」等の全人教育；社会人基礎力の指導を受けながら、新入生も早く本学1年生となって下さい。

また、上級年次に進級した学生は、確固たる自覚のもと、さらなる高い目標に向かって着実に進化し、後輩にその姿勢を継承していただきたい。

1. 大きな時代の転換期：平成27年春の新規雇用は明るい兆し

さて、我々を取り巻く社会的背景は、昨年国内景気は平成24年末を底に25年前半は回復軌道を辿りました。第二次安倍内閣の「大胆な金融緩和」に触発された円高是正や株価の急回復により、輸出が持ち直し、個人消費が上向き、加えて緊急経済対策から公共投資が拡大し、景気浮揚を牽引しました。後半は、外需が停滞し輸出は伸び悩み、平成26年4月に実施された消費増税前の駆け込み需要によって個人消費や住宅投資が下支えとなり、景気は緩やかな回復傾向となりました。さて、平成26年の経済動向見通しは、4月の消費増税後の影響で個人消費や住宅投資では反動減が予想されるが、経済対策による景気下支えや企業収益回復に伴う賃金水準の改善、住宅取得支援策、復興やオリンピック等の需要増などにより、前年に比べ減速気味だが緩やかな回復が予想されます。

資源が乏しい我が国は、少子高齢化に伴う労働力人口の減少や雇用情勢の悪化がみられるなか、「人材」の育成と確保こそが、今後の経済成長や国際競争力、地域の産業振興を決定づける最大の要因となります。閣議決定された「新成長戦略『元気な日本』復活のシナリオ」でも、産業構造の変化

に対応できる実践的な職業能力を有する人材、将来にわたり付加価値を創出する質の高い人材、労働力のグローバル化が進展するなか国際的にも高く評価される専門知識・技能を有する人材などの社会基盤を支える「人づくり」が急務といわれています。

しかも、少子化が進み、日本の総人口は2007年1億2800万人をピークアウトに、高齢者率19.5%（うち後期高齢者9.0%）、生産年齢人口（「国の力」といわれる）60%が、2050年には総人口9,500万人、高齢者率35%（うち後期高齢者25%）、生産年齢人口50%と減少し、そこに働く人材にはより高度な職業能力が求められるのです。

こういう時代だからこそ、将来を見通し、未来を創造できるように、前を見据え、学校生活に確固たる目標を持ち、「自ら学び、考え、行動し、問題解決できる人材」を目指していただきたい。

2. 学校生活に確固たる目標を持って！

専門学校の教育の特徴は、その柔軟性にあり、如何に社会の人材ニーズを的確に読み取り、社会が期待する人材育成に添えていくかが使命であり、職業教育の必要性・重要性がより一層増してきているのです。

諸君が学ぶキャンパスは、極めて恵まれた環境にあります。JR静岡駅南口から徒歩数分、通学やアフタースクール等、君たちの学校生活の範囲を広げるのに便利な立地条件だけでなく、学内ネットワークや諸処の最先端施設・設備、バリアフリーキャンパス。この中で「友情を育み」、「なりたい自分になる」という素晴らしい目標達成に向けての努力に期待します。

創立者の教育理念である高い理想に基づく「挨拶を基調とした全人教育」は、本学園の根幹をなすものです。学校生活においては、「学習を通じて」、社会においては「仕事を通じて」、「自己実現」を図るという教えをしっかりと身につけ、このような教育理念を掲げる本学で学ぶことに「誇り」と「これだけのことをやったんだ！」という「自信」を持って就職活動に、社会に己を売り込むのです。

3. 本学は60年の歴史と伝統を持つ実践的職業高等教育機関

本学は昭和の戦後復興の中、この静岡の地において昭和26年「手に職をつけたい」という女性の強い要望に応え、服飾分野の職業教育機関として創立者中村忠雄先生が中村技芸専門学院を設立。地域に有用な人材を輩出し、実践的職業教育一筋に60年の長い歴史と伝統を持った職業人育成の高等教育機関です。

専門学校静岡電子情報カレッジは創立27年、学校法人中村学園がコンピュータ社会到来による人材ニーズに応え、昭和61年にJR静岡駅南口徒歩約3分の南町ITキャンパスに静岡電子専門学校と専門学校静岡スクールオブビジネスを設立。平成3年に静岡県内初のインテリジェントキャンパスを設置し、平成4年通信衛星JC-SAT IIによる双方向性通信衛星教育システム等の最先端IT教育環境を構築。インターネット時代となり平成9年学内イントラネットとマルチメディア工房を設置した県内初のマルチメディアキャンパスに本館(南町キャンパス)を改築。あわせて、両校を統合して現在の「ICT情報システム学科および映像・音響デザイン学科」が設置された「専門学校静岡電子情報カレッジ」が誕生。また、平成16年に

はより高度なネットワーク・セキュリティ技術の習得を目指す1年制の専攻科「**テクニカル研究科**」、また医療システムオンライン法制化にともない「**情報通信技術**」と併設校の静岡福祉医療専門学校の「**医療・福祉分野の知識**」とのコラボ教育により、両スキルを履修する「**医療情報システム学科**（3年制）」を平成22年新設。創立以来27年間のコンピュータ、ネットワーク、デザインの専門特化された知識・技術、技能の教育に**他分野の付加価値を融合し、新価値を創造する先端的な教育システム**を先取りし、社会の人材ニーズに添えております。

また、超高齢化社会に対応した「**質の高い福祉人材づくり**」と、平成10年静岡駅南口徒歩約5分のバリアフリー森下町キャンパスを新築し、「**介護福祉学科**」および専門学校静岡スクールオブビジネスに平成2年より設置している医療事務系の「**医療情報秘書科**」を移設して静岡福祉医療専門学校を新設。さらに、平成14年には少子高齢化社会の人材ニーズに添え、静岡県内初の修業年限3年間で介護福祉士の課程を履修したうに、社会福祉主事、社会福祉士・福祉レクの課程を併せて履修し、介護系と社会福祉系の国家資格にレクと福祉レクの資格の取得を目指すことのできる画期的な「**総合福祉学科**」を新設。また、「**保育園・託児所不足**」、「**幼保一体化**」という社会的人材ニーズに添え、近畿大学豊岡短期大学との教育連携により平成21年度保育士および幼稚園教諭、社会福祉主事の国家資格等の取得を目指す「**子ども心理学科**（3年制）」を新設。そして、学内付帯実習施設として平成23年10月に「**子育て支援キッズハウス（託児所）ひかり**」を静岡駅すぐの南町キャンパスに設置。

このように、両専門学校とも時代の人材ニーズに添えた実践的職業教育を行っており、これが専門学校静岡電子情報カレッジは創立以来23年間、静岡福祉医療専門学校は創立以来15年間**就職決定率100%継続達成**と誠に喜びに堪えない快挙で、本学の誇りとするところであります。平成25年度は残念ながら専門学校静岡電子情報カレッジは数名の未決定者がおり、今年度こそは再起をかけて両校揃って100%達成を目指します。

4. 地域に開かれた魅力ある専門学校づくり

本学園は、**複合化(複雑化・多様化)社会**に対応すべく組織改革、カリキュラムの見直し、設置学科の改組、学習環境の改善(教育システムのeラーニング併用を予定)等を実施し、平成26年度からは卒業生たちや社会人の「**スキルアップ**」や「**学び直し**」の場としての教育環境を準備しております。

また、本学のもう一つの教育目標である『**地域に開かれた専門学校**』の活動として、病院・福祉等の「**ボランティア**」、「**レクリエーション**」等の活動において、地域の方々との触れ合いを通して高い評価をいただいている。地域ボランティア活動やインターンシップ、全国的コンテストへのエントリー等を通して「**より地域に開かれた魅力ある専門学校づくり**」を積極的に目指します。

5. 新入生御殿場宿泊オリエンテーション

「**なりたい自分になる**」ために本学の学生としての心構えの徹底と一人でも多くの「**心の友**」をつくることを目的として実施。

本学の「**全人教育**」と「**よりよい就職をするために**」の具現化に向け、本学への入学目的を確認しあい、その達成を誓い合う。この成果を、目的達成のために、**前向きな姿勢**で学校生活を送り、しっかりと形にして、これから迎える就職活動で、また社会生活の中で、「**これだけのことをやったんだ**」という「**自信**」と「**誇り**」につなげていただきたい。

また、人生における人的財産となり、お互いに切磋琢磨できる「**心の友**」を、この専門学校生活の中で一人でも多くつくり、「**友情を育み**」大切にして育てていっていただきたい。

「**朋友は 我が喜びを 倍にし、悲しみを 半ばにする**」

これからの君たちの日々の生活が、「**感動**」を求め、「**充実感**」、「**達成感**」ある生活であることを期待しております。

6. 平成25年度「卒業生を囲む会」を開催 卒業生に感謝！！

電子情報は就職活動に既に入っているため3月に開催、福祉医療は5月に開催予定。卒業生が仕事の時間を割き、また有給休暇をつかって来校。在校生が各設置学科を代表する卒業生から「**学校生活上のポイント**」や「**職種毎の社会の現状**」、「**就職活動のポイント**」等の活きた指導を受け**職業観、進路意識の高揚を図ること**と、また、教職員も「**本学の指導内容に対する現場からの助言**」等を受け、その必要性に応じて学校生活、学生指導に反映しております。

私たちは、卒業生の貴重な情報を今後の学校生活・就職活動に活かすことで、大事な時間を割いて来校してくれた卒業生に対する御礼としましょう！

7. 就職活動の面接指導：「己の人生を切り拓く就活です！」

校長はじめ教頭、進路室長、事務長等を模擬面接官とした採用面接練習に臨むに当たり、事前に、次のことをしっかり自分のものにしておきましょう。

- ①**己を知れ**：今までの人生で、また今後、身につけることができる**自分の売り**は何なのか、自分の就きたい**職種**につながるように纏めて下さい。
 - ②**敵を知れ**：自分が就職を希望する会社、病院、施設等がどんな組織なのかをとことん**調査・研究**して下さい。
 - ③上記、①、②から**自分のことば**で「**志望の動機**」と「**自己PR**」を創り上げるのです。その際、この専門学校での「**スペシャリスト教育：専門スキル**」を表現し、つぎに、高等学校生活やアルバイト等社会で身につけられたことを、**希望職種**につながるようにまとめて下さい。
- そして、最後に「**仕事を通じて、自己実現を図る**」と結ぶのです。
- ④そして、「**これだけやったんだ**」という自信を持って、失敗を恐れず、「**しっかり前を向いて**」自らの可能性を信じて、**元氣よく「若さ」で勝負！！**

“**There is a will! There is a way!**”「**ヤル気になれば道は開ける**」
「**成功する人**」：「**感謝の気持ち**」をいつでも表現でき、**下記の項目を有する人**

- ①誰に対しても明るく笑顔を忘れず、**気持のよい挨拶**ができる人
- ②物事を肯定的に考える（**プラス思考**）人
- ③日々の生活が、将来を見据え、**明確な目的意識**を持って行動できる人
- ④豊かな感性を持ち、**想像・創造することが上手**な人
- ⑤社会が評価する**スキル、アイデンティティ**を持った人
- ⑥人生のステージ毎に一人でも多くの「**心の友**」を持つことの出来る人
- ⑦相手の立場に立った**コミュニケーション能力**を持った人

8. 新入生保護者様 後援会入会にあたり

平成26年度新入生の保護者様におかれましても本学園後援会にご入会いただきありがとうございます。

本学後援会は、後援会会則にもありますように、「**学生に、より充実した学生生活を送ってもらう**」という目的のもと、本学の教育と研究の両面で、就職活動をはじめ学生各種活動補助、入学式・卒業式に際しての援助、教育・研究環境整備への補助、専門職業教育学会、産学連携・学校連携等に関する支援など、多大なご尽力をいただいております。

つきましては、**学校教育と家庭教育の両輪**で、学生たちを胸張って社会へ送り出すため、今後も本学園の教育内容をご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。

本学園は学生の指導を通して、「先生、この学校の卒業生でよかったよ！」という多くの卒業生を社会に送り出すために、
また、「この学校の卒業生を雇用してよかったよ！」と言っただけ多くの雇用先をつくるべく今後も努力してまいります。

◆『平成26年度の指導方針について』

教頭・教育部長 有賀 浩

建学の精神、校訓を胸に、本学の伝統である「**挨拶を基調とした全人教育**」、そして「**仕事を通して自己実現を図る**」こと。グローバル社会を生き抜く為に「**日本人としての自信と誇り**」を持ち、**確固たるアイデンティティ**を確立する。これら本学における職業教育の土台となる教育理念を確と心に据え、夫々の学科で目標とする職業に必要な**スキル**を積極的に修得し、各自が目指す職場、目指す職種への就業を果たすことが、**高等職業教育機関としての本学の役割**だ。

学生個々の職業観を養い、**スキルアップへのモチベーション**を常に高いレベルに維持する。産業界・福祉・医療・保育等、各分野との連携に加え、学生相互に「**創意進取の研鑽**」を重ね、**試行錯誤**を通じ、**クリエイティブな精神**を大いに培う。プロフェッショナルとなった後も、それぞれの就職先で「**現代社会の変化に対応**」でき、自らキャリア形成ができる、自らの「**質**」を高められる人材となること。まさに校訓「**技術は力なり 我は我が道を行く**」のために必要な力を、**修学期間中に一つでも多く身に付けよう。**

こうした目標に向けて、今年度、電子情報系は「**新教育システム**」をスタート。福祉医療系は全国の専門学校に先駆けて文部科学大臣から認可された「**職業実践専門課程**」*としての第一歩を踏み出す。